

地域の課題に共に取り組む

大学は、地域の自然や人同士のつながりを大切にすると視点を持ちながら、自然環境保全と経済発展の両面にわたり活躍できる人材の育成を目指しています。その実現のため、学術的な研究はもちろんです、学生自身による現場での体験を重視。鳥取のことを学ぶ「鳥取学」や、現場の課題を見つけ、解決に取り組む「プロジェクト研究」など、多くの科目で地域と関わり、そこで生活する人たちと共に課題に立ち向かいます。



「週末住人の家」は集落内の空き家を活用

また、大学を離れて地域に貢献する自主活動も盛ん。例えば、鳥取市用瀬町に入り込み、住民と共に町をつくる「『もちがせ週末住人』プロジェクト」では、地元の魅力を体感できる体験型民宿「週末住人の家」をオープンしました。さらに、自らの教育実践力向上と中高生の学習支援を組み合わせた「環大スタディ」のほか、ユニークな取り組みがいくつも行われています。



「環大スタディ」では指導は学生1人に対して生徒は多くても3人まで

地域社会と学生双方に利点あり

鳥取市の中心市街地にあるサテライトオフィス「まちなかキャンパス」で、教職課程を履修する学生たちによる「環大スタディ」が昨年からはまりました。これは教員を目指す学生が周辺地域の中学生、高校生に宿題や課題についてアドバイスする学習支援を行いながら、学生の指導力の向上を目指すもの。週に一度、毎回10人程度の学生がボランティアで参加し、指導しています。

昨年からは参加している環境学部4年生の小林将也さんは「生徒にいかにして勉強に向き合ってもらうかが難しいですね。できたこと、伸びたことを褒めるよう心掛けています」と話します。また、教職課程を指導する足利裕人教授は「『環大スタディ』に参加する学生は目に見えて教え方がうまくなりますね。継続して中高生に指導することは自信につながり、将来、教壇に立つ上で生きるのではないでしょう」と効果に期待を寄せています。

学習支援で経験を積む



活動の中で成長を

地域イノベーションセンター
センター長

よしなが いくお
吉永 郁生教授

本学では、鳥取特有の自然、社会に通じ、愛着を持って、鳥取で活躍できる人材の育成を目指しています。愛着の対象とは、まず家族や友人などの「人」、次に人と人とのつながりである「社会」、そして人と人以外による現象の「自然」。これらの関係性の調和が本学の基本理念で「人と社会と自然との共生」に通じます。

鳥取への愛着は、地域の人たちと直接触れ合うことが重要。そのため、学外に出て行く授業はもちろん、「まちなかキャンパス」のように学生と地域との接点をつくっています。課題のある現場でそこに暮らす人と共に活動することで、学生は大きく成長し、地域への貢献もできる。そういう事例をこれからも増やしていきたいですね。